

3 症状別の漢方サポート療法

食欲不振

食欲不振が中心なら → 六君子湯

四肢のだるさが中心なら → 補中益気湯

六君子湯、補中益気湯で治療する。お腹の症状が中心の場合は六君子湯、四肢のだるさが中心の場合は補中益気湯で治療する。

症例：67歳 男性 胃がん術後

胃がん術後で2週間に1度のペースで化学療法中の患者さんである。点滴をすると3日間は食欲がなくなるが、5日目以降は食欲は元に戻るという。プロトコールに従って六君子湯1包1×昼後で治療が開始された。服用していると少し改善するがまだしんどいという。食欲がないというよりは、吐き気で食事が摂れないという感じということだった。茯苓飲1包1×昼後に変更した。心窩部がすつきりして食事量が増えたと喜ばれた。以後、愛飲されている。

胃切除後の患者さんは茯苓飲の方に効果があるように感じる。六君子湯は前庭部の蠕動運動改善作用があるが、胃切除後の患者さんは前庭部がないので、六君子湯の効果が出にくく、上部消化管蠕動運動調節は食道に依存していて、食道の蠕動運動改善作用のある茯苓飲の方に効果が出る印象がある。

この患者さんは術後しばらく、食思不振や食物の通過障害で辛い思いをされたが、茯苓飲は体に合っていたようで休み休み服用して

いた。化学療法が全て終了し、3ヵ月に1度の外来診察になっても、時々**茯苓飲**を希望され服用していた。3年が経過した時点で**茯苓飲**は飲んでいないといわれたので終診とした。がんサバイバーになったので、**十全大補湯**を処方したほうが良かったかも知れないが、お元気になるので患者さんは希望されなかったかも知れない。

症例：71歳 男性 大腸がん術後

大腸がん術後で2週間に1度のペースで化学療法中の患者さんである。点滴後の食欲不振のためプロトコールに従い**六君子湯**1包1×昼後が処方されているが効果不十分ということで紹介となった。もともとうつ病で精神科に通院されている方で向精神薬を服用されている。診察にて顔が抑うつ状だったので**六君子湯**に**香蘇散**を追加した。調子は良いということで継続処方とした。

食欲不振は精神的要因も関与する。このような場合、エキス剤にはないが**香砂六君子湯**の適応となる。**香砂六君子湯**は**六君子湯**+**香蘇散**で代用できる。診察で抑うつを見つけることが大切と感じた症例だった。病態に応じて漢方薬を処方することが大切だと感じた。

症例：65歳 男性 直腸がん術後

直腸がん術後2ヵ月目の患者さんである。化学療法が開始され1ヵ月が経過した時点で、口内炎、食欲不振、泥状下痢のため外科より紹介となった。**半夏瀉心湯**1包1×朝前、少量のお湯で溶かして冷ましてから口内炎に刷り込み、そのまま飲み込むように指導した。その他、**六君子湯**1包1×昼前、**人參養榮湯**1包1×夕後で治療開始した。

3週間後の2診：口内炎は良くなったが、食欲不振と下痢はあまり変わりなし。**半夏瀉心湯**2包+**補中益気湯**2包分2×朝昼後、人